学校番号	3002

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	高校生の美術Ⅰ　（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

対象や事象を感じ取り、造形的な視点より材料と用具の特性を理解して「絵画・彫刻」、目的・機能・美しさを感じ取り「デザイン」、美術作品の特徴や美しさを感じる心から「鑑賞」の分野について学習します一人ひとり、思いや見方、感じ方が、みなそれぞれ多少の違いがあります。様々な表現形式・色彩・古典的技法などに着目して、自分なりの感じ方、表現を深めていきましょう。
いろいろな見方を「鑑賞」で共有して考えを深めていきましょう。

2　学習の到達目標

世界の情報を感じつつ、美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
そして美術の学習を通して日本の美術独自の文化を理解し世界に発信していける感性と創造性を育成する。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の情報を感じつつ、美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。 そして美術の学習を通して日本の美術独自の文化を理解し世界に発信していける感性と創造性を育成する。	・造形的な優れた点や美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を立案し、発想や構想をたてたり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	美術はなんだろう	鑑賞・絵画・彫刻 オリエンテーション 教科書を鑑賞し多様な表現形式を理解して、今後の創造的活動に役立てる。	a:形や色彩・材料などの性質やそれらが人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに全体のイメージで捉えることを理解している。 c:美術作品などのよさや美しさを感じ取り、美術の働きや文化についての理解を深めている。	ワークシート 個人発表		振り返りシート 意見交換(討論会)
	模写(水彩絵の具によるセザンヌの絵画の模写)	・身近な物、静物画を有名な古典的な画風から理解し、古典的な技法により描写し水彩絵の具の特性を活かして着彩する。 ・古典的な題材を使用することにより、作品の時代背景を理解し作品への造形を深め作品へ関心が深まる ・鑑賞では古典的な作品から当時の作者の関心やその名画から受ける関心も高まる。	a:水彩絵の具の特性を理解し完成度の高い作品になるような態度を評価する。 b:有名な作品から受ける完成度の高い技術を、模写という基礎能力から学びながらより作品に近づけることにより作品の関心が深まる。 c:模写を通してセザンヌの印象派の作品への理解が深まり、当時の作者の思いを理解する。	水彩絵の具の基本的描写 下書きのこと 絵の具の混色の理解	基本的な混色の知識 筆などの用具の理解	討論会による作品の合評会 個人カードによる審査 振り返りシート 個々の感想文
2学期	白彫版によるレリーフ	・1学期は平面的な活動だったので2学期は立体の課題に取り組む。 白彫版によるレリーフの課題を通して立体の造形を理解し、平面とは違った表現方法を模索しながら取り組む。 彫刻刀を使用するので、個々の道具の相違点を理解し安全に使用できるように取り組む。	a:形や材料などの性質が人の感情にもたらす様々な効果について理解するとともに、全体から受けるイメージを捉えることを理解している。 b:目的や条件を考え、どうしてその形に設定したか、その形がどのように伝え方など、表現の構想を練っている。 c:完成した作品に対して創造する喜びを味わい、目的や機能、作品の伝えたいイメージが、他者に影響を与えることを感じている。	構想を考えるためのラフスケッチ	用具の正しい使い方 用具の理解	個々の作品への講評 生徒同士の討論会 個人カードによる評価会 個々の振り返りシート

	点描による人物画	・発想や構想 ・制作 ・個々の作品を鑑賞する ・美術や美術文化を理解し古典的な技法を使用し個々の作品の相違点を理解する。	a:材料（水彩絵の具）を理解し自分の考えたアイデア、下絵をもとに着想し発展させる。 b:個々の作品がどの分野に分類されるか、他者の作品との比較から造形的な美しさを理解させる。 c:作品が完成した後、様々な作品との比較研究。様式や技法や着色の相違を理解し、研究・考察する。	（写真等）見本よりスケッチ、下絵 絵の具の理解 着色の理解 筆の使い分け	他者の作品との比較 作品への応用や基礎技法の理解	作品の合評 意見交換 個々のカードによる比較 個々の生徒の振り返りシート
3学期	1年間のまとめ	1．2．3学期学習した内容の振り返り。 今後の美術のあり方 生涯にわたり美術との関わりを考える	a：1年間の作品を振り返り自己の考えを感想文等で残す。 b：作品を他者と比較し感性の感じ方を吸収する。 c:1年間の造形活動を通して、美術的な感性を考える 美術とは何か、世界と美術との関わりを理解する。	感想文 作品	他者との作品の比較	1年間の感想

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度